

Essay Title: キャリアビジョンと自身の価値観

私はキャリアを考えると、具体的・抽象的な2つのビジョンを描く。具体的なビジョンは私を成長させ、抽象的なビジョンは私の価値観を暗示し続けている。

具体的なビジョンを描く時、たとえば、ロボットコンテストへ向けて必死で学習・設計・製作を行っている時などは、意欲が非常に高い。ビジョンが具体的であるほど、その実現に必要な情報が次々と見えて、常にビジョンに動かされる。ロボットコンテストの取り組みでは、毎年表彰式での最優秀賞受賞理由までイメージして取り組み、実際に毎年思い描いた理由で賞を頂いた。研究でも同様である。具体的なビジョンを研ぎ澄まし、強力に思い描くことができれば、必要となるスキルや知識、チームメンバーを集められ、自身の成長にも繋がる。私を突き動かし成長させるのはいつも、具体的な、自分にとって魅力的なビジョンである。

ところが、キャリアビジョン、たとえば〇〇年後の自分のための活動となると、途端に具体性を失い、迷いが生じる。〇〇年後自分は何をしているのが幸せなのかを、現在の価値観で判断してしまっているのか、迷いが生まれる。世の中では、将来の具体的な到達点から現在を思い描き、今すべき事を洗いだすのだ、と言われるが、そもそも到達点を今定めることにためらいがある。今はただ、「こうなりたい」という抽象的なビジョンのみが頭のなかにある。このビジョンを生み出す元となる感情や価値観を明らかにしなければ、長期的に具体的なビジョンを思い描くことは容易ではない。むしろ、他の可能性を潰してしまうだけである。

キャリアの具体的なビジョンを思い描くためには、自分の価値観を明らかにする必要があると考えている。なぜ「こうなりたい」と感じるのか。「こうなりたい」が実現した時、どんな幸せを感じるのか。究極的には、何を幸せと感じ、何のために生きるのかを明らかにすることになる。うわべだけの自己分析などで人生を決めたくはない。研究室ではふとこのような話になり、朝まで語り合うことが多々ある。

自問自答だけでは、自分の価値観を明らかにすることはできない。居心地の良い環境から抜けて、自分を削りだすことで価値観を露呈させ、理解する必要がある。異分野交流などはその良い例である。自分とは価値観の異なるであろう人と接し、腹を割って将来を語り合い、お互いの価値観の違いを認めたくえで自分の価値観を具体化させる。この過程では、価値観が変化することも稀ではない。現在は IEEE TOWERS やリーディング大学院学生会議の運営など、多数の仲間と異分野交流の機会を作ること自体にも力を入れている。参加するだけでなく、仲間とともに機会を作っていく中でも、次第に自分の価値観を明らかにできている。

他方、価値観が完全に具体化されない中でも、自分の行く先を見極めるため、また具体的なビジョンへ落とし込むため、ロールモデルを持つことは常に意識している。自分の価値観が具体化されない状態であっても、「自分もこうなりたい!」という感情はわかる。私には短期・中期・長期的なロールモデルがそれぞれ1名ずつおり、その人生を参考にしながら現在のビジョンを思い描いている。もちろん、これらの人生が自分にとっても良い人生かは分からないが、少なくとも現時点で最適なキャリアを考える参考になる。他にも、多くの先輩方と関わる中で、このまま私が進むとどういう可能性があるのかを理解しよう務めている。

数年のうちに自分の納得できるキャリアを見つけるため、この世界をよく知り、自分の殻を削って価値観を理解したい。私のキャリアビジョンはまだまだ抽象的であり、半年から1年先の具体的なビジョンがようやく思い描けるようになった程度だ。私が自分の価値観を理解するにつれ、今は抽象的なビジョンが次々と具体化され、最高のキャリアを思い描くことができるようになるのだろう。せつかくの人生、自分の知る世界を謙虚に見つめ、多くの人と関わり、自分の価値観を理解していきたい。良いキャリアのためには、抽象的なビジョンに迷いはあれど、具体的なビジョンは研ぎ澄まし全力を傾けねばならない。まずは、現在の具体的なビジョンの実現に向けて、全力で取り組んでいく。